

市民協働事業 相互評価シート

1 市民協働事業の概要

事業名称	令和6度 さかえ区民活動センター運営事業	
事業の実施者	団体等	横浜市福祉サービス協会・さかえ区民活動支援協会グループ
	行政	横浜市
事業の目的	市民公益活動、生涯学習活動及びボランティア活動の支援を通して、市民の参画をもとに、区民力の向上により豊かな地域づくりを図ることを目的として、さかえ区民活動センター事業を行う。	
事業の内容	(1) 開業準備 (2) センターの運営に関する事 (3) センター事業に関する事 (4) 事業改善に関する事 (5) 施設管理に関する事	
役割及び責任 分担等	協働契約書のとおり	
実施期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日	

記入日	令和7年4月1日
記入者	[団体等] ・団体等名： 横浜市福祉サービス協会・さかえ区民活動支援協会グループ ・記入責任者 氏名： 柴田 真紀 連絡先： 045-392-5157
	[行政] ・部署名： 栄区役所地域振興課 ・記入責任者 氏名： 谷川 みちる 連絡先： 045-894-8393

2 事業評価相互検証シート

事業実施プロセス相互チェックシートでおこなった結果をもとに、相互で本検証シートを作成します。

事業の計画づくり

（協働して事業計画をつくるにあたり、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。）

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- ・委託者の考える「市民の参画をもとに、区民力の向上により豊かな地域づくりを図る」ための現状と課題を共有した上で議論を行い、令和6年度の事業計画を考えることができた。
- ・令和5年度の課題を改善する事業計画となるよう話し合うことで、課題であった区内全域の区民利用施設等とのネットワーク強化に効果的な実施手法をとることができた。

【今後改善が必要と思われること】

- ・区内全域の自治会町内会等との関係を強化し、地域ニーズに対応した事業を計画する必要がある。
- ・活動団体同士の連携やネットワーク化の強化を進める取組みが必要である。

事業実施

（協働して事業を実施した結果、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。）

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- ・協働事業委託者・受託者と毎月、定例会議を対面で開催し、情報共有を図った。事業実施の際は、対等な立場で自由に意見交換しながら事業を進めることができた。
- ・共催した「栄区民利用施設スタンプラリー」では、区民利用施設に加え、地域組織や区役所の他部署、小学校も巻き込み、区全体で事業を推進させることができた。
- ・特定の年代層を対象にした受託者の自主事業「ブラッシュアップライフ（連続講座）」では、地域ケアプラザや区社会福祉協議会の協力を得るなど、関係者が協働して事業を実施することができた。
- ・人財バンク登録者の情報量と閲覧性の向上を図るため、ホームページのリニューアル準備を進めた。

【今後改善が必要と思われること】

- ・協働事業委託者・受託者ともに、お互いの強みや得意分野をどう生かし合えるかを考え、提案しながら、相乗効果が得られるよう事業を推進していく必要がある。
- ・人財バンクの登録者数は、右肩上がり推移しており、登録者の地域デビューの機会も徐々に増えている。今後は、さらに地域で活躍の場が増えるよう、制度の周知と職員のコーディネート力が求められる。
- ・地区センターや地域ケアプラザとの連携を深め、複合施設としての強みを発揮する一方で、それぞれの役割分担を意識して、区民活動センターならではの事業を組み立てる必要がある。

事業の成果

（協働して事業を実施した結果、当初期待された事業効果がどのような成果となりましたか。）

- ・広報活動や関係機関等との連携により、区民活動センターの認知度が高まり、令和5年度と比較して、自治会町内会や区民利用施設等からの相談件数が増加し、人財バンク登録者の紹介件数も増加した。
- ・「栄区民利用施設スタンプラリー」は多くのターゲット層の参加を促し、地域活動へのきっかけを作ることができた。
- ・協働事業委託者・受託者が日頃から情報共有を行い、事業計画の策定や自主事業の企画・実施を通じて協働が進み、人材の発掘・育成やグループ化につながっている。